

施策マネジメントシート ～平成30年度の振り返りから2019年度の実績へ～

①計画⇒実施（Plan⇒Do） (5月中に記入)

長期振興計画 の位置づけ	まちづくり分野	しごと分野	担当課		経済観光課			
	政策分野	観光・交流	課長名		岩下 栄一			
	施策	12 観光・交流の振興	重点施策の該当		H30	—	2019	—
施策の目的	対象	観光事業者、観光客		意図	地域の魅力をしってもらう 所得を増やす			

施策の目標指標

目標指標(単位)	長振策定時	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値)				最終目標値
	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	2019年度目標値	2020年度目標値	2021年度目標値
種子島への船による入込数(離島カード利用者以外)(人)	—	146,856	130,863 (148,000)	149,000	150,000	151,000
宿泊者数(人)	66,415	68,454	69,164 (68,000)	69,000	70,000	71,000
種子島へ行ってみたい人の割合(%)	96.8	96.3	94.7 (97.2)	97.4	97.6	97.8

市民アンケート調査の結果(施策に関する重要度と満足度)

平成29年度実績		平成30年度実績		2019年度実績		2020年度実績		2021年度実績	
重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)
84.0	24.0	85.2	22.2						
重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI
80.1	-10.2	82.9	-7.7						

施策推進のための取組の成果を測る指標

基本事業名	関連 戦略 No.	成果指標(単位)	長振策定時	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値)				最終目標値
			28年度実績	29年度実績	30年度実績	2019年度目標値	2020年度目標値	2021年度目標値
観光施設の整備	6-15 6-16	観光施設・環境の整備・修繕件数(箇所数)	0	1	1 (2)	2	2	2
観光誘客活動の推進	6-13 6-15	種子島への船による入込数(離島カード利用者以外)(人)	—	146,856	130,863 (148,000)	149,000	150,000	151,000
観光誘客活動の推進	6-13 6-15	宿泊者数(人)	66,415	68,454	69,164 (68,000)	69,000	70,000	71,000
交流事業の推進	6-15	交流者(イベントなどによる来島者)(人)	981	814	712 (1,100)	1,150	1,200	1,250
交流事業の推進	6-15	民泊人数(人)	260	618	592 (340)	380	420	460
文化歴史資源を活用した観光の推進	5-12 6-15 6-16	鉄砲館の入場者数(人)	25,317	29,785	29,788 (26,500)	27,000	27,500	28,000
文化歴史資源を活用した観光の推進	5-12 6-15 6-16	古民家(月窓亭など)の入場者数(人)	8,918	9,661	8,876 (10,000)	10,500	11,000	11,500
文化歴史資源を活用した観光の推進	5-12 6-15 6-16	観光ルートの設定(回)	—	—	—	1	1	1

②-1 振り返り(Check)

施策を取り巻く環境変化・市民ニーズ等への対応
・平成30年度の種子島への入込客数は、295,987人で、平成29年度と比較すると1,118人、0.4%の増となった。平成29年4月から有人国境離島法に基づく離島住民の航路・航空路運賃低廉化事業が実施された効果もあり、昨年に引き続き増加傾向となっている。また、航空機においては、1,824人、4.3%の増となり、3年連続して増加している。特に、種子島空港を利用するチャーター機が大幅に増加していることが挙げられる。観光については、島内1市2町及び種子島観光協会と連携しながら進めており、今後も観光客誘客に向けた取り組みを強化したい。

施策マネジメントシート ～平成30年度の振り返りから2019年度の取組へ～

施策の成果（貢献度の高い事業等）と現状・課題	
成 果	・離島活性化交付金を活用し種子島観光プロモーション事業を行い、観光PRや情報発信、ニーズ調査を行った。中でもSNSサイト(facebook)に加えインスタグラムを活用した観光・イベント情報の発信のほか、美しい景色等の発信に力を入れた。また、有人国境離島地域社会維持推進交付金を活用し、前年度からの継続的な事業のほか台湾・香港から旅行エージェントを招聘し、島内の観光資源を外国からの視点で評価し、具体的な旅行商品の造成まで行った。
現状・課題	・「種子島滞在型観光促進事業」においては、前年に引き続きサイクルツーリズムやアニメツーリズムを推進する事業展開を図っている。また、今後、インバウンド(訪日外国人)の増加が見込まれることから、もう一泊したいと観光客に思わせるための施策に繋げる必要があり、受け皿づくりや仕組みを含めどう継続的に取り組むかが課題となっている。
今後の方向性	今後の方向性の根拠等(他施策との連携、総合戦略との関連、環境変化等を踏まえ記入)
拡大・充実	・少子高齢化による人口減少が進展するなか、観光客等による交流人口拡大は、長期振興計画に掲げる「しごと分野」の豊かな「まち」をつくるため、非常に重要なカギを握っている。これまでの「ロケットの島」「鉄砲伝来の島」「サーフィンの島」という種子島のイメージに加え、サイクルツーリズムやアニメツーリズム等あらたなコンテンツが出来つつあることから、観光・交流の拡大に向け幅広い層の観光客に対応できるよう、魅力ある観光地づくりに引き続き取り組む。また、東京オリンピック開催によるポルトガルとのホストタウン登録を契機とした交流等やインバウンド対策も推進する。

②-2 政策部会による振り返り(Check)

(6月中に記入)

今後の方向性	政策部会で出された施策に対する意見等(将来像の実現に向けた課題や優先度、市民との協働のあり方など)
拡大・充実	・施策担当課の記載する方向性のとおり。